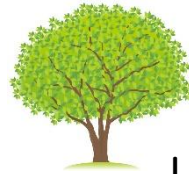


ひぎまいの和



令和 8 年 9 月 30 日
横浜市立ひざり舞岡小学校
〒233-0015
港南区日限山二丁目 16 番 1
TEL 045(841)6561

10月号

うまくいかなかったときこそ、伸びしろがある

副校長 村田 健司

「失敗」この言葉の響きに、どこか負の印象をもたれる方は多いのではないのでしょうか。失って、敗れると読めば、できることなら避けたい。そんな思いが私の胸のどこかにもあります。ところが、「失敗から学ぶ」「失敗は成功のもと」と聞くと、同じ失敗という言葉でも、その捉え方は変わってきます。

- ① 発明家のエジソンは、うまくいかなかったことを「**方法の発見**」と捉えた
- ② 本田宗一郎は、数多くの失敗が成功を支える「**土台**」と考えた
- ③ 松下幸之助は、諦めずに続ける限り失敗はまだ「**途中のこと**」と考えた

社会の変化とともに、「待つ」「試す」「やり直す」という経験のあり方も、少しずつ変わってきました。今では、時間をかけずに情報を得たり、答えや判断にたどり着いたりできる場面が増えています。例えば、ショート動画は短時間で要点を伝え、生成 AI は瞬時に答えを示してくれることがあります。また、店を選ぶ時も、ネット上の口コミや評価から、ある程度の満足度を予測することができます。さらに、※¹キャンセル界限という言葉に表されるように、時間や労力をできるだけかけずに、自分に必要なものを選択する考え方も見られます。もちろん、こうした便利さによって、限られた時間の中で多くの情報に触れることができ、私たちの生活を豊かにしているのも事実です。しかし、その一方で、思い通りにならない経験や、何度もやり直ししながら答えに近づいていく経験は、以前にも増して貴重なものになっているように感じます。

※¹ **キャンセル界限**…SNS など、入浴や外出など日常の行動を「やめる・しない」ことを表す言葉。

国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2023) では、日本の子どもたちは世界的に高い水準の学力をもつ一方で、「自分は得意」だと思ふ子どもの割合が低いことが示されています。こうした結果をみると、**「できること」≠「自分ができると思うこと」**なのかもしれません。

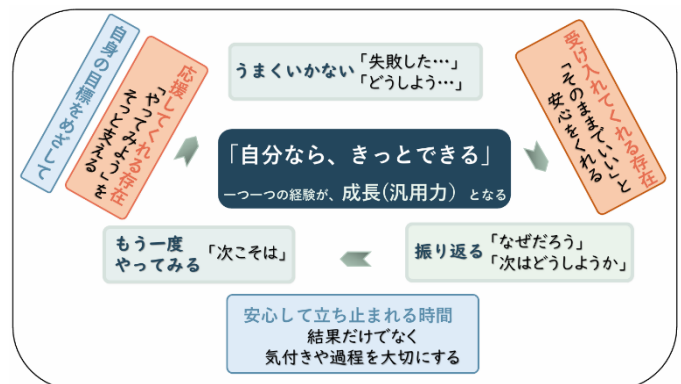
〈得意と思えないのは、なぜか〉

- ・「できた」より「できなかった」に目が向きやすい
- ・正解への意識が高く、間違えることを失敗と感じやすい
- ・周囲と比較し、自分を低評価してしまう

ある授業で、黒板を使って発表していた人が間違いに気付き、教室に緊張感が走ったその時、小さな拍手が聞こえました。すると、全体に拍手が広がり、発表した人は少し笑みを浮かべて席へ戻りました。【安心できる、認め合える学級文化】

中休み、二重跳びに挑戦。何度うまく跳べなくても、友達からアドバイス・声援をもらい、「もう一回」と縄を回します。うまくいかないから考える。やり方を変えて試す。時間になると「またやる」と言い、校舎へ入りました。【挑戦を後押してできる関係】

こうした姿を見ていると、「失敗してもやってよかった・もう一度やってみよう」と思えるのは、自分を受け入れてくれる・応援してくれる存在です。うまくいなくても自分の思いを受けとめてもらったこと、諦めずに挑戦できたこと、このような経験の一つ一つが自信につながっていくのだと思います。そして、挑戦と同じように大切にしたいのは、「振り返ること」です。うまくいかなかった時に、「なぜだろう」「次はどうしようか」と、立ち止まって考えると、次の挑戦につながる気付きがあります。



学校が「単に失敗が許される場所ではなく、
失敗が成長に変わる場所」へ

失敗を味方に（見方を）変えれば、「失った」からこそ得られるものがあり、「敗れた」から近づける勝利があるのかもしれませんが。できた喜びを味わいつつ、うまくいかない悔しさや、もう一度挑戦する経験を積み重ねて、子どもたち一人ひとりが「**自分なら、きっとできる**」と自信がもてる学校創りに努めていきたいと思います。

すべては子どもたちのために ～「もう1回」が、自信を育てる～